

公益社団法人ふくしま緑の森づくり公社経営改善計画書(第2次緑の森づくり新生プラン)の概要

現行プラン(H26~H30)の成果

- 森林施業の重点化による経費節減(10.1億円)、木材販売収入の増(1.6億円)
- 公庫償還金についての県支援
- 分収割合変更の同意 **1.9ポイント**上昇 変更契約達成率 65.6% → **67.5%**(平成31年3月末現在1999/2963件)
市町村契約の**100%発効**
- 管理費節減、無利子公庫資金の活用による削減 **(2.1億円)**
- 経営改善積立資産の取得 **(4.4億円)** ○ 長期借入金残高の減 **508.0億円(H26.3.31) → 499.7億円(見込)**

- 造林地現有面積 約15,000ha
- 森林施業 長伐期・非皆伐による 針広混交林施業の推進



新プラン(H31~R5)で重点的に取り組む事項

○ 森林の公益的機能の持続的発揮

- ・ 補助事業の活用による効率的な森林整備 率先した森林再生への取組
(目標 森林整備面積 629ha→560ha※)
- ・ 長伐期・非皆伐施業の実践による公益的機能の発揮



○ 木材の生産、販売対策

- ・ 補助事業を活用し、低コスト化に向けた効果的な路網を整備
(目標 作業路延長 23,147m→25,000m※)
- ・ 有利な取引条件の確保、計画的な生産管理、大口需要先の取り込み等販路の拡大、未利用材の活用などスケールメリットを生かした販売対策を実施
(目標 木材販売収入 30,682千円 →35,000千円※)



○ 公社運営の改善(コスト削減)

- ・ 契約者への丁寧な説明、信頼関係の構築により分収割合の見直しを推進
(目標 75% かつ計画期間内の覚書発効を目指す※)
- ・ 経営改善積立資産を活用し、公庫借入金の繰上償還による利子負担を軽減、不成績林の解消
- ・ 事業資金の確保、借入金の抑制のため県、国、市町村等の協力、支援を要請

< 効率的な森林整備 >

(※「目標」は最終年度の数値)

< 市町村との連携による新たな森林管理システムへの挑戦 >

- ・ 公社造林地と一体的に管理すべき人工林の管理・施業の受託、技術支援等



- ・ 林業専用道との調整による低コスト化に向けた効果的な路網の整備
- ・ 一体的な人工林管理によるスケールメリットを生かした有利な販売対策
- ・ 未利用材のバイオマス活用

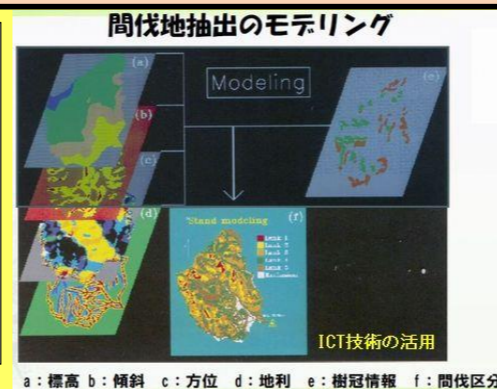


- ・ 新たな森林管理システムの実施による受託収入の確保



< ICT技術、新たな施業技術の活用 >

- ・ 航空レーザー計測データなどICT技術の活用により資源情報の精度向上を図り、安定的な材の供給体制を整備し有利な販売につなげる
- ・ 列状間伐など新たな施業技術の導入による作業効率の改善
- ・ 技術研修会の開催



a: 標高 b: 傾斜 c: 方位 d: 地利 e: 樹冠情報 f: 間伐区分



機械化の推進



技術研修会の開催